

不衛生な家子に影響

ここにいるよ

沖縄子どもの貧困

第2部 親は・・・(13)

⑤

「エキブリが寝床に這い上がり、天井裏で猫がネズミを追いかけると、6歳の娘の「アトピー」性皮膚病がひどくなると、3歳の息子がトイレに行くとお漏れがして、お漏れした水をそのままにしていたと、ママ(30)は泣きながら身を寄せた。ママは「家を出たい」と思った。

元夫はしつけを断って、猫をきつく叱ったり、たたいたりした。そのことでけんかが絶えず、別居状態になって、昨年12月に離婚した。

当時住んでいたアパートの家賃は月6万5千円。ママは仕事上の仕事に就いていたが、手取りが1万7千8百円で、1人で家賃を払い続けるのは無理だった。家賃には、それぞれ10歳ほど

年の離れた兄と弟の婚約者、弟が住んでいた。ママたちは居間で暮らすようになったが、居間は家族の共有スペースに感じられ、図書館や公園へ通うことが多かった。

兄の代りに遊ばれた家は古く、あちこち腐っていた。トイレは井戸水を使っていて独特の臭いがあり、明かりは電球が1個、息子は「海いし、暗いから、いやだ」と言っていて、トイレを我慢するため、お漏らしやおむしをするようになった。

お風呂は、ボイラーを壊かしてもお湯が出るまでに時間がかかり、水量も少ない。寒くて、子どもたちはよく風邪をひいた。たまたまに銭湯に行くと、思い切り体を洗うのが楽しかった。ネズミを追いかけた、天井裏



子どもたちは、広く、清潔なアパートで自由に遊べるようになった

「伸び伸びできる環境必要」

ママたちは先月、母子家庭支援の一つとして親子支援センターが借り上げると、Rのアパートに入ることができた。

清潔で明るいアパートに引っ越してから、娘のアトピーの症状は落ち着き、息子もおねしょが減った。子どもたちは今、気兼ねなく遊ぶ、走り回って遊び、笑顔が増えた。ママも怒ることも格段に減った。

子どもたちのストレスは大さかったと思う。住めれば、子どもたちは、伸び伸びできる住環境が必要だと分かった。

しかし、家賃が住める期間1年。ママは行政の臨時職に就いたが、手取りは10万円ほど。先の生活に不安がある。「住居の問題を抱えるひとたちを「お断り、うるさくしないで」と叱った。3歳になったばかりの息子は「前のうちには帰りたい」と泣いた。

身内に気を使い、息を詰めるような生活。一時は車上生活も高踏橋(ト) 火・木曜日掲載